

## 身近な情報でLGBTへの理解を深めよう！



- ▶「虹色の朝が来るまで」  
監督：今井ミカ
- ▶「彼らが本気で編むときは、」  
監督：荻上直子
- ▶「アバウト・レイ 16歳の決断」  
監督：ゲイビー・デラル
- ▶「ジェンダー・マリアージュ  
～全米を揺るがした同性婚裁判～」  
監督：ベン・コトナー、ライアン・ホワイト



- ▶「きのう何食べた？」テレビ東京
- ▶「隣の家族は青く見える」フジテレビ
- ▶「女子的生活」NHK総合
- ▶「弟の夫」NHK BSプレミアム
- ▶「glee」海外ドラマ



- ▶「しまなみ誰そ彼(たそがれ)」(漫画)  
出版社：小学館  
著者：鎌谷悠希
- ▶「青のフラッグ」(漫画)  
出版社：集英社  
著者：KAITO
- ▶「いろいろなんなかぞくのほん」(絵本)  
出版社：少年写真新聞社  
著者：メアリ・ホフマン  
イラスト：ロス・アスキス
- ▶「LGBTヒストリーブック  
絶対に諦めなかった人々の  
100年の闘い」  
出版社：サウザンブックス社  
著者：ジェローム・ポーレン  
翻訳：北丸雄二



- ▶一般社団法人社会的包摂  
サポートセンター  
「よりそいホットライン」  
24時間 365日  
☎0120-279-338
- ▶東京弁護士会  
「セクシュアル・マイノリティ  
電話法律相談」  
第2・4木曜日 17～19時  
(祝祭日の場合は翌金曜)  
☎03-3581-5515
- ▶東京都性自認及び性的指向に  
関する専門電話相談  
火曜日・金曜日  
18時～22時  
(祝日・年末年始除く)  
☎03-3812-3727

これらLGBTの現状を人権問題

## 性の多様性を 受け入れるために



これらLGBTの現状を人権問題

「自分は異性しか好きにならない普通の女／男だ」「LGBTは身近にはいないし、自分とは違う。特殊な人たち」という思い込みがもしあるなら、一旦それを脇に置いて、「自分も、社会の中の『当たり前』に当てはまらない部分を持っているかもしれない」と考えてみませんか。

そして、「自分の性のあり方も、多様な性のあり方のうちのひとつなんだ」と気づくことができたら、性別に限らず互いの違いを尊重しあえる、誰もが暮らしやすい共生社会に近づいていくのではないのでしょうか。

ホームレスとなるケースもあります。社内の雰囲気やLGBTに否定的だったり差別的なら、カミングアウトすることもできずに一人で悶々とし、うつ状態に陥る人もいます。また、医療現場や高齢者にあつては、急病のパートナーの病状情報を、親族でないという理由で知らせてもらえない、パートナーの介護保険の申請が認められない、など深刻なケースも報告されています。この問題への対応として、現在、日本では同性パートナーシップ証明制度の導入などを1県26市町村で実施しています(令和2年1月現在)。

として見れば、性の多様性についての正確な知識と理解を社会全体で深めていく必要があります。【図表2】のQ1の割合で考えれば、ひとクラスに2～3人の子どもがこの感覚を持っているということになります。思春期に自分は周りや違うと気付いて悩み始めるLGBTも多いので、その時期に長い時間を過ごす学校の教職員などには、とりわけ適切な理解が求められると言えそうです。

そのためには、人間の性にはグラデーションのような様々な形があることを知って、一部のあり方だけを「当たり前」と決めつけるような固定観念を見直していくことが必要なのです。

「自分は異性しか好きにならない普通の女／男だ」「LGBTは身近にはいないし、自分とは違う。特殊な人たち」という思い込みがもしあるなら、一旦それを脇に置いて、「自分も、社会の中の『当たり前』に当てはまらない部分を持っているかもしれない」と考えてみませんか。



## 自分らしく生きる 居場所づくりを

### キーワードは 「仲間との出会い」

2016年9月に、「レインボーコミュニティ西東京」は、西東京市で活動するLGBTのネットワーク団体として立ち上げられた。

メンバーの一人Aさんは、小さいころからスカートを着るのにも赤いランドセルを背負うのにも違和感があったという。女子として扱われるのがイヤで、男子グループの方が居心地がよかった。子ども時代はそんな思いをうまく表現する言葉も見つからず、もやもやが募るばかりだった。中学生のときに、体は男だけど「ウチは女なんだ」と話す、逆のトランスジェンダーに出会うたことで、性同一性障害について初めて知り、自らの性を認識した。

また、Bさんは30代で「あたしゲイです」とカミングアウト。周囲がLGBTに無理解



レインボーコミュニティ西東京のみなさん

な環境だったので、大学まで親しい人付き合いができず、やはり悶々と過ごしてきた。2018年埼玉県での(年齢不問)のLGBT成人式に誘われ、一気にネットワークが広がり、「カミングアウトしてよかった」と実感。仲間がいる心強さを感じる一方、カミングアウトできずに自らのセクシュアリティを隠して苦しんでいる人たちに何とか呼びかけたいという。

「親友にカミングアウトするのに3時間もかかりました」と当時を振り返って苦笑いするのはCさん。それでも相手さんが友としてそれまでと変わりなく受け入れてくれたことでホッとしたそうです。

実際にはカミングアウトしたことで家族や友人と疎遠に

なり、会社にもいられなくなるといったケースも少なくない。苛酷な実態を知るメンバーたちは、とにかくLGBT当事者が孤立しないよう、仲間が集える場を提案している。

### 一人ひとりが 幸せのモデルになる

当事者たちが抱える生きづらさを共有して乗り越え、一人ひとりが自分らしくありのままに暮らせる社会を実現する。レインボーコミュニティの目指すところだ。現在の目標は、西東京市でも同性パートナーシップ条例※4が成立して証明書が発行されるようになること。その目標を見すえながら、それぞれのメンバーが交流会に、講演会に、学校に活動を広げている。

特にメンバーが心配なのはセクシュアリティの悩みを抱える未成年。彼らがふらっと立ち寄れて情報も得られる場を作りたいという。また、わが子にカミングアウトされたり、LGBTかもしれないと戸惑う保護者たちを受け止める窓

**レインボーコミュニティ西東京**

レインボーコミュニティ西東京は、LGBTも暮らしやすい多様で魅力的な西東京市になるように、交流会や勉強会の開催、地域行事への参加等を行っています。メールでのお問い合わせも随時受け付けています。(rainbow-community-nishitokyo@outlook.jp)

どうぞお気軽にご連絡ください。また、団体のイベント情報等のお知らせが届くメール会員も募集中です。(QRコードから登録できます)

(※4)戸籍上同じ性の二者間での社会生活において、法律上の婚姻と異ならないほどの関係をパートナーシップと定義。